

CRAFFT スクリーニング インタビュー (バージョン 2.0)

医師が口頭にて実施すること。

次を言うことから初めて下さい: 「今からお尋ねする質問はすべての患者さんに尋ねているものです。できるだけ正直に答えてください。守秘義務により、お答えいただいた内容を口外する事はありません。」

パート A

過去 12 ヶ月で、次の行為をした日数を教えてください:

1. ビール、ワインなど、**アルコールを含む飲料**を2, 3口以上飲む。一切ない場合は0と教えてください。
2. **マリファナ** (大麻、ハッピー、ハシシやそれらの入った食物) や、**合成マリファナ** (「K2」や「スパイス」等)、またそれに相当する物を使用。一切ない場合は0と教えてください。
3. **ハイになるために何か他のもの** (例えば違法な薬物、処方箋の必要な薬物や、薬局で買える薬物、また嗅いだり「吸ったり」するもの) を使う。一切ない場合は0と教えてください。

日数

日数

日数

パート A の答えは全て 0 ですか?

はい



車についての質問だけをして終了

いいえ



下の CRAFFT* 質問 6 問全部を聞く

パート B

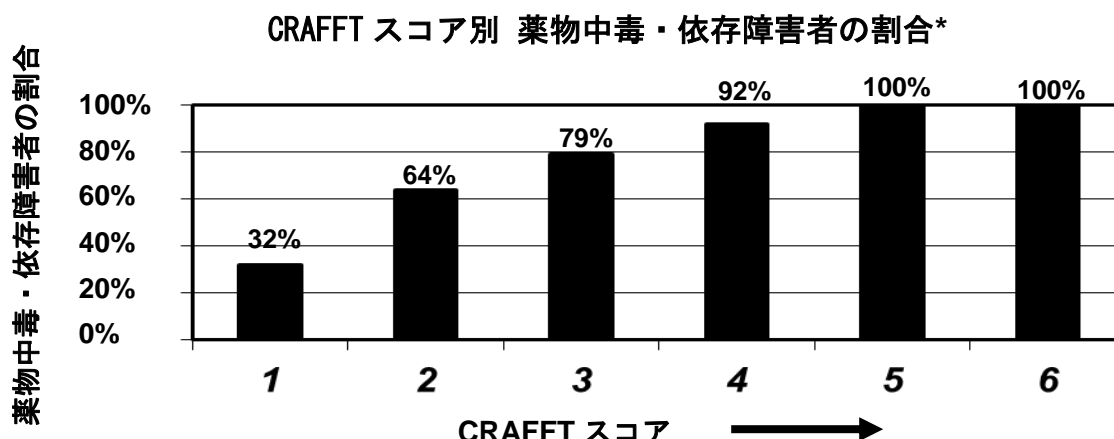
- | | いいえ | はい |
|---|--------------------------|--------------------------|
| C これまでに薬物やアルコールを使用して「ハイ」になっている誰か (自分自身を含め) が運転する車に乗ったことはありますか? | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| R これまでリラックスするためや、気分を良くするため、または周りに合わせるためという理由で、薬物やアルコールを使用したことはありますか? | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| A 一人でいるとき、または自分一人でアルコールや薬物を使用したことはありますか? | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| F これまでアルコールや薬物を使用している間に自分が何をしたら忘れてしまったことはありますか? | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| F 家族や友達から、アルコールや薬物の量を減らすように言われた事がありますか? | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| T アルコールや薬物を使用している時に、何かトラブルに巻き込まれたことはありますか? | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

* 「はい」の答えが2つ以上の場合、深刻な問題を抱えていることを示唆し、更なるアセスメントが必要とされます。次の手順は裏に記載してあります。 →

病院職員およびカルテ管理関係者への注意

このアンケートに含まれる情報は、特別に筆記で許可を得ない限り口外してはいけなく、と定める特別守秘連邦法 rules (42 CFR Part 2) で守られています。カルテに含まれる診療記録を公開する為に患者から得る一般的な許可のみで、このアンケートに含まれる情報を公開しては**いけません**。

1. 患者の答えのスコアが下のグラフでどこに位置するかを見せ、薬物中毒・依存障害のリスクがどの位あるかを話し合ってください。



*文献: Mitchell SG, Kelly SM, Gryczynski J, Myers CP, O'Grady KE, Kirk AS, & Schwartz RP. (2014). The CRAFFT cut-points and DSM-5 criteria for alcohol and other drugs: a reevaluation and reexamination. Substance Abuse, 35(4), 376–80.

2. 下記の会話の例を参考に、手短なカウンセリングを提供してください。



1. スクリーニングの結果を**再考する**

答えが「はい」であった項目それぞれに、「もう少し詳しく話してもらえるかな?」と聞く。



2. 使用しないことを**提案する**

「あなたの主治医（看護婦、医療関係者）の観点から言うと、アルコール、マリファナや他の薬物を使うと 1) 脳の発達に悪影響を与えて、2) 学習や記憶の妨げになるし、3) 恥ずかしい、または危ない目にあったりするから使わないほうがいいと思うよ。」



3. **車の運転、乗車する事**のリスクに関するカウンセリング

「若い人の一番の死因が車での事故なんだよ。私の患者さんみんなに **Contract for Life** を渡しているの、家に持って帰って保護者の人と一緒に読んで、安全に家に帰るためのプランを話し合ってくださいね。」



4. 自己啓発的な発言、**返事**を促す

非使用者: 「もし誰かから、どうしてお酒飲んだり薬物使用したりしないの、と聞かれたらどう答える?」 使用者: 「使わないことの利点には何があるかな?」



5. 自己効力感を**強化する**

「あなたは意志が強いから、アルコールや薬物が自分のゴールを達成することの妨げにならないようにすることができると思うよ。」

3. 患者に **Contract for Life** を手渡す。 www.crafft.org/contract で入手できます。

© John R. Knight, MD, Boston Children's Hospital, 2016.

Boston Children's Hospital の CeASAR (Center for Adolescent Substance Abuse Research)

の許可を得て複製しています。

(617) 355-5433 www.ceasar.org

詳しい情報、他の言語によるバージョンは、 www.ceasar.org を参照してください